

聖陵 Sei-Ryou

2020.3 Vol.23
盛岡大学聖陵同窓会報



発行者／盛岡大学聖陵同窓会
事務局／〒020-0694
岩手県滝沢市砂込 808 盛岡大学内
電話 .019-688-5555
ホームページアドレス
<http://www.morioka-u.ac.jp/seiryau/>

東日本大震災により被害を受けられた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

CONTENTS

■ 同窓会長あいさつ	1	■ 卒業生は今	3
■ 理事長あいさつ	1	■ 留学生レポート	3
■ 学長就任挨拶	2	■ 活躍する在学生	4
■ 栄養科学部の歩み	2	■ 事務局だより／編集後記	4
■ 恩師からのメッセージ	3		



英語文化学科 スピーチコンテスト



盛大ドリーム33



「児童・生徒の学び舎」プロジェクト
「レッツゴー!冬の2020モリソニック」



書道部パフォーマンス

本校は陸前高田市と地域包括連携を締結しており、12月に学長等の公開講座も行われております。大学の有益な情報や支援を通じて相互交流が活発に行われ、地域から必要とされる盛岡大学を目指しております。

さて、本年度のホームカミングデーは、台風直撃のため中止せざるを得ない状況になりました。また、例年参加の盛岡さんで我々ドリームさんさチームは、最優秀賞を受賞致しました。短大のアニモ同窓会の谷藤会長と一緒に歓喜に沸きました。

今後とも、本学の発展と聖陵同窓会への御支援よろしくお願ひ致します。

元号が「令和」に改まった昨年5月、理事長に就任しました。私は盛岡大学と同じ私立大学の出身です。半世紀以上前、そのA大学に入学した時、同窓会誌にこんな文が載っていました。「ある地方都市で東京大学学長とA大学総長の講演会を開くことになった。二人が列車で駅に着いた時、駅前広場に「歓迎A大学〇〇総長」ののぼりを持ったA大学OBが大勢詰めかけた。一方、東大側は一人の迎えもなく学長はさみしそうだった。これが官学と私学の違いである」との内容でした。私学は建学の精神の旗印の下に学生が集まり、いわば「ファミリー」のようなものだと思っています。

「愛と奉仕」を建学の精神とする学校法人盛岡大学は法人としては来年創立70周年、大学は40周年を迎えます。創立者の細川泰子先生が戦後間もない昭和25年、現在の盛岡市本町通に開設した栄養研究所が母体です。細川先生はその前年、大沢川原教会で洗礼を受けています。教育の道に踏み出すにあたりその覚悟を誓ったのではないでしょう。同窓会員の皆さんと共に先生の尊い志を引き継ぎ、盛岡大学の発展に努めたいと思います。

令和の 会員のみなさまと共に



盛岡大学聖陵同窓会
会長 菅原 元

・同窓会長
あいさつ



盛岡大学聖陵同窓会名誉顧問
学校法人盛岡大学理事長
山添 勝寛

・理事長
あいさつ

『母校愛』

元号が「令和」に改まった昨年5月、理事長に就任しました。私は盛岡大学と同じ私立大学の出身です。半世紀以上前、そのA大学に入学した時、同窓会誌にこんな文が載っていました。「ある地方都市で東京大学学長とA大学総長の講演会を開くことになった。二人が列車で駅に着いた時、駅前広場に「歓迎A大学〇〇総長」ののぼりを持ったA大学OBが大勢詰めかけた。一方、東大側は一人の迎えもなく学長はさみしそうだった。これが官学と私学の違いである」との内容でした。私学は建学の精神の旗印の下に学生が集まり、いわば「ファミリー」のようなものだと思っています。

学長就任のご挨拶

盛岡大学学長 高橋 俊和



昨年（2019年）の5月1日、新天皇の即位に伴って「平成」から「令和」に元号が改められました。その1ヶ月前の4月1日に、徳田元先生の後を受けて学長に就任しました。改元された「令和」は、「よい（令）」「おだやか（和）」な時代を願った2文字です。新しい時代の到来を期待したいところです。

平成23年（2011年）の東日本大震災から、はや9年が経過しました。国内外を見渡してみれば、今年の夏に開催される東京オリンピック・パラリンピックのようない話題の一方で、地球温暖化による自然災害や最近の新型コロナウイルスの蔓延など、予測困難な事態が現実のものとして我々の前に立ちはだかつてきています。

日本では少子高齢化が加速し、10年以上も前から教育関係者の間で懸念さ

れていた「2018年問題」（18歳人口の急減）が現実のものとなり、どの大学もその対策に追われています。東北エリアの18歳人口は、今を100として、5年後に84%、10年後には78%近くまで下降していきます。動かしようのないこの人口動態を、しっかりと認識しておかねばなりません。高等教育機関である盛岡大学は、「愛と奉仕」という建学の精神に基づいて、社会に貢献する学生をどのように育成し、輩出していくか。今、現に直面し、さらにそれを乗り越えていかなければならない古くて新しい大きな課題を抱えています。大学が置かれたこの厳しい状況を打開していくには、教員と職員が協働して共通の目標に向かって行動することが求められます。それには、先を見通した目標と計画が必要です。

徳田前学長は、平成26年〜平成30年までの第1次中期目標を作つて、さまざまな改革を進めてこられました。その総括および、その後の新たな課題を踏まえて、現在第2次中期目標（令和1年度〜令和5年度）を策定し、その実現に向けて取り組んでいるところであります。第2次中期目標として大きく3つの目標を掲げました。

I 地域における本学の特長の明確化と伸長

II 学修者本位の教育の充実

III 組織的な学生支援の確立

この3つの目標を設定するにあたって、私が基底に置いたのは「これからの時代を生き抜く知の体力を育成する大学へ」というビジョンです。今、メディアで取り上げられる大学教育のあり方には、厳しい視線が注がれています。それを謙虚に受け止め、地域における盛岡大学ならではの価値を再確認し、それを「個性・強み」として伸ばしていかなければなりません。建学の精神に則った大学教育を一層充実させて、社会の変化に対応できる「強い学生」を世に送り出すことが、本学の使命だと考えます。

盛岡大学は地方の小規模大学です。小規模校の特長を生かし、学生と教職員の距離を近くして、「対話のある学校」を合い言葉にこれからも「人間力教育」に力を入れていきたいと思ひます。

同窓会の会員の皆様には、これからも盛岡大学を温かく見守っていただくことをお願い申し上げ、なお一層のご活躍を心より念じております。

栄養科学部の歩み

栄養科学部 栄養科学科

教授 笹田 陽子

盛岡大学短期大学部食物栄養科を改組し、平成22年4月に栄養科学部が開設されました。

盛岡大学短期大学部食物栄養科最後の卒業式は、平成23年3月に予定しておりましたが東北に甚大な被害を及ぼした東日本大震災で取りやめとなり、当日来る事ができた卒業生には卒業証書を渡しました。

翌年の平成24年3月に「卒業を改めて祝つて」を幼児教育科とともに開催し、一つの締めくくりをしました。

学部は開設から10年になりますが、着実に、確実に栄養の専門家が育つてきていると感じております。卒業生は病院や福祉施設、行政等々で活躍しております。管理栄養士を目指し、学生も教員も一丸となって国家試験合格に向け、頑張っております。

私は、昭和50年4月に生活学園短期大学食物栄養科助手として採用され、実験や実習の補助をしました。昭和55年から、給食管理、栄養教育、応用栄養学等の担当教員として教育に携わりました。その間、研究をまとめ、学位（博士（栄養学））を取得することができました。

私はこの3月で定年を迎えます。多くの学生や教職員の皆さまとの出会いは私の財産となりました。生活学園、盛岡大学に育てられ教育研究に携われたことに感謝するとともに、盛岡大学・盛岡大学短期大学部の益々の発展を心からお祈りしております。

※笹田教授にはホームカミングデーでご講演いただく予定でありましたが、台風により中止となったため改めて文章を頂戴しました。



恩師からのメッセージ



文学部 日本文学科

教授 藤原 正義

私事ですが、私の大学時代は、昼は青山学院大学の教務課で働きながら、夜は隣の國學院大学（両大学とも渋谷）に通う苦学生でした。青山学院では教授とゼミ生とのアカデミックな関係を羨ましく、将来大学教員になって学生と共に学ぶ夢を抱き続けながら4年間勤務しました。その後37年間の岩手県高校教員生活を終えて、縁あって本学で学生と共に学ぶという40年来の夢を盛岡大学が叶えてくださいました。その間、生徒・学生・教職員・保護者・地域の皆様はじめ、出会った全ての方々から学ぶという謙虚な姿勢を心がけ、「我以外皆我師」を座右の銘とし、一生勉強、一生修養を肝に銘じて参りました。若い前途有望な皆さんにはもっと素晴らしい夢があると思います。ぜひそれを実現してください。皆さんと同様、私も盛岡大学を卒業します。「我以外皆我師」に感謝します。ありがとうございました。



栄養科学部 栄養科学科

教授 成田 新一郎

平成25年に着任し、7年間お世話になった盛岡大学を卒業することとなりました。管理栄養士課程での教育に重きを置く栄養科学部への着任は、教員としての仕事時間と熱意の大半を基礎研究に費やしてきた私にとって人生の転機となりました。盛岡大学卒業生の皆さんからは、私が講義や実験で皆さんに伝えたこと以上に、教員として必要なことを数多く教わりました。多様な学生に対応することの重要性和難しさと僅かな充足感を感じました。盛岡大学では「面白きことはよきことなり」の精神で、新たなことにも手を出しました。業務外ながら盛岡大学教職員組合や教職員バドミントンクラブへの貢献度を自己評価すると結構高いと思います。盛岡大学で学んだことは私の財産であり、今後の仕事あるいは人生を足掻き進むための駆動力となると信じています。



文学部 児童教育学科

准教授 本田 容子

盛岡大学文学部児童教育学科において将来、教育に携わろうとする皆様がその大きなテーマに真摯に取り組む毎日をご一緒することができて幸せであったと、今、思います。

徳は孤ならず、これは孔子の言葉です。学業のみならず、誰かのために、あるいは何事にも一生懸命に取り組む姿をそばで見聞かしていますと、眩（くら）くていつも感心しておりました。そのひたむきな姿勢は必ずや今後の糧となるのではないのでしょうか。私事ですが、盛岡大学にお世話になりますのは今年度、そして非常勤講師として次年度までとなります。

学科の先生方はもちろんのこと、教職員の皆様には大変お世話になりました。どこにいても盛岡大学の皆様のことを想い、これらのご多幸をお祈りいたしております。

どうもありがとうございました。



栄養科学部 栄養科学科

教授 板井 一好

2014年（平成26年）4月から、栄養科学科で社会・環境と健康分野を担当して6年が経ちました。長かったような早かったような年月ですが、それだけ密度の濃い盛岡大学での日々であったと思います。4月の新学期に入学してくる1年生は、まだまだ「幼い」雰囲気をもっており、それが2年3年と経過することにより「幼さ」の雰囲気がなくなり「成長」していく姿がはっきりとわかり、さらに4年生になると「頼もしさ」さえ感じるようになっていく姿を見ることは楽しいことでした。

赴任当初は学生との距離感がわからず講義の仕方にも戸惑って、学生との距離に困惑するなど、いろいろなことがあった6年間ですが、総じて楽しかったと思っています。2020年3月31日で退職しますが、学生の皆さんには今後とも楽しくも努力する学生生活を送ってもらいたいと希望します。

卒業生は今



文学部 英米文学科

昭和59年度卒業

株式会社 元來社 代表取締役

佐々木 和久さん

13年前、指定管理者制度を導入した公共施設の管理運営を主業とする会社を設立し、現在はJR花巻駅前にあるイベントホール、スタジオ等を備えた「なはんプラザ」とその周辺3施設の管理運営を行っています。

いわゆる官の資本の入らない会社で指定管理を主とする形態自体が全国的にも稀で、先例が皆無であるが故、一から手探り、自己流の経営のまま、駆け足で今日に至ったというのが今の率直な心境です。

現在の仕事も含め、就いた仕事のほとんどが新規事業の立ち上げに携わっていることを思う時、大学の一回生としてサークル、クラブ、学友会そして聖陵祭等の立ち上げ、組織づくりに直接関わった4年間の私の原点であったことに改めて気づかされ、思いを深くしています。

事業は堅調ですが、これまで以上に独自性、独創性を追求し、良い意味で公共施設のイメージを変える施設運営を目指しています。

留学生レポート



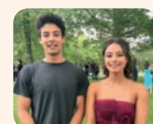
平成元年度カモーンソン大学交換留学生

キャメロン・ロスさん

私は、現在カモーンソン大学から盛岡大学に留学しているアイザック・ロスの父です。私たち親子は、盛岡大学へ2世代で留学した家族となりました。息子は、私が'89年に盛岡大学へ留学した時と同様、大変よくご指導いただきました。もう30年も経ったとはびっくりです！

私が留学した時は、幸運なことに滝沢の親切なホストファミリーと一緒に暮らすことができました。当時できた新しい友人とスポーツやハイキングをしたりして多くの楽しい時間を過ごしました。

私は一度ビクトリアに戻り大学を卒業したあと、再び盛岡に戻り、市内の英会話学校で働きました。留学があったおかげで、私は新しい生活にすぐ慣れることができました。語学学校、地元のテレビ局の仕事、プライベート英語レッスンで、とても忙しく過ごしました。現在の妻あやのと会ったのはその頃です。私は盛岡城跡公園で彼女にプロポーズし、結婚23年目を迎えました。'97年にビクトリアに戻り、アイザックと、その妹カイラの2人の子供を授かりました。私はその後、同じハイテク企業で20年働いています。近い将来、また日本に戻って友達や家族を訪ねられることを願っています。



▲写真左：アイザックさん
右：カイラさん

活躍する在学生

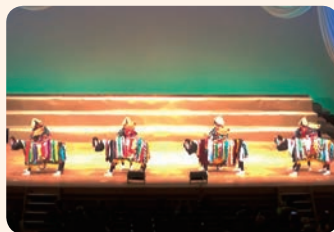


「全国健康づくり推進学校表彰
事業最優秀賞」に貢献

栄養科学部 栄養科学科 4年

梅木 梨穂さん
小野寺莉菜さん
工藤加奈子さん
村木 麗葉さん

私たち（川越有見子先生ゼミ）は、卒業研究で肥満児童に対する ICT を活用した健康栄養教育の試み（第二報）として、「肥満児童とその家庭に対する健康教育～ICTの活用を通して～」の下、山形県の小学校で肥満児童を対象に健康栄養教育プログラムを実施しました。プログラムを通して児童が「食に対する自己管理能力を養うこと」を最終目標に設定し、親子共に知識の定着、活用できる授業づくりと遠隔地を結ぶコミュニケーションツール（ICT）を用いた支援を行いました。その結果、実施校が全国健康づくり推進学校表彰事業で最優秀賞を受賞し実施校より感謝状を頂きました。先輩方の活動も含めて貢献できたことが大変嬉しく思います。この経験を生かしてより良い健康栄養教育を行い、地域の健康増進の発展に寄与できるよう、日々学び続けていきたいと思っています。



踊り伝える民俗芸能

文学部 児童教育学科 2年

米田日向子さん

私は、4歳の頃から郷土芸能
伝承活動細川会で民舞を習っ
た会に参加し、踊りを披露してい

1年生の時に出場した公益財団法人日本民謡協会主催の民謡民舞全国大会において、チャグチャグ馬コを踊り、日本一になり、内閣総理大臣賞を受賞することができました。踊りを見てくださった方からは「懐かしい」「本物を見たくなった」などの声をかけていただきました。

チャグチャグ馬コを創作し教えてくれた会主、丁寧に熱く指導してくださった二代目先生にはとても感謝しています。

私は10代から60代までの幅広い年代の方々と一緒に活動しています。先生、先輩方から踊りはもちろんのこと、所作や礼儀など沢山の事を学ばせていただいています。

これからも郷土芸能を大切しながら、たくさんの方に喜んでいただける踊りを大切に踊り続けていきたいと思います。

平成 30 年度 聖陵同窓会決算報告

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

収入の部

(単位：円)

項 目	予算額	決算額
終 身 会 費	1,750,000	3,650,000
入 会 金	3,500,000	1,825,000
雑 収 入	20,000	16,697
特定預金取崩収入	0	0
計	5,270,000	5,491,697
繰 越 金	2,291,367	2,291,367
合 計	7,561,367	7,783,064

支出の部

(単位：円)

項 目	予算額	決算額
事業費	3,670,000	3,678,228
事務費	10,000	0
通信費	50,000	0
会議費	200,000	16,205
慶弔費	100,000	35,000
旅費交通費	100,000	10,000
財政基金繰入支出	1,500,000	1,500,000
計	5,630,000	5,239,433
繰越金	1,931,367	2,543,631
合 計	7,561,367	7,783,064

事務局だより

昨年10月に開催予定だった第38回聖陵祭が台風19号のために中止となりました。あわせて第7回ホームカミングデーも中止とさせて頂きました。また、3月17日（火）に挙行予定でした学位記授与式も新型コロナウイルス感染症の拡散防止の観点から中止となりました。学園祭も卒業式も中止となりましたので、来年度、ホームカミングデーで何か出来ないか同窓会としても考えていきたいものです。

さて、今号にメッセージを寄せて頂きました5名の先生の他に、児童教育学科の井川輝美先生も盛岡大学をご退職されます。平成7年から令和2年まで25年の長きに渡り学生の指導にあたられました。ご都合によりメッセージは頂けませんでしたが、この場を借りてお知らせいたします。

■ 訃報

長澤義正先生（元盛岡大学文学部英米文学科教授）令和元年8月8日、83歳で逝去されました。盛岡大学には平成8年から平成18年までお勤めになり、平成10年から平成14年までは英米文学科職課程の教員として「英語科教育法」などの授業を担当され、ご自身の高等学校教員時代のご経験も踏まえ、情熱かつ愛情こもった授業を展開され学生たちに大変慕われておりました。長澤先生のご指導を頂き、教員として活躍している卒業生が数多くおります。謹んでご冥福をお祈りすると共に、皆様にお知らせいたします。

ご注意ください

同窓会員やその保護者様より、大学や大学同窓会を名乗った名簿詐欺の情報が寄せられております。同窓会ではこの同窓会報同封以外の情報収集を行っておりません。不審な電話にお気をつけください。

編 集 後 記

■ 編集委員

小田野愛子(平成24年度卒) 畑村とも子(昭和60年度卒) 佐藤大裕(平成12年度卒) 上條尚樹(平成15年度卒) 吉田智子(平成15年度卒) 長谷川健之(平成18年度卒) 川田彩乃(平成20年度卒) 佐々木悠(平成23年度卒) 平佳那(平成24年度卒) 杉澤佑(平成26年度卒) 松原千夏(平成26年度卒) 今野結(平成28年度卒)

今回の同窓会報を作成するにあたり、既刊の会報を読み返しました。（本学 HP で閲覧できます。）今の在学生在生まれる前の創刊号から、令和の時代となった今号まで、時代は違えど根底にある精神は変わらないように感じます。そんな同じ精神の仲間を繋ぐ架け橋のような存在で在りたいと、改めて思う次第です。この同窓会報が母校やあの頃を思い出すきっかけとなれば幸いです。是非ご意見・ご感想をお寄せください。お待ちしております。